

令和3（2021）年度

事業報告書



社会福祉法人近江八幡市社会福祉協議会

【総括報告】

新型コロナウイルス感染症第6波において、緊急事態宣言の発令や近江八幡市においても多くの方が感染されるなど、各方面に大きな影響を与えました。感染症の影響により収入の減った方への生活福祉資金特例貸付では、制度が何度も延長され、1,300世帯、延べ16億円を超える申請を受け付け、相談対応にあたりました。また、自宅療養を余儀なくされる方も増える中、市民生委員児童委員協議会と協働で、新型コロナウイルス感染症緊急食糧等支援事業『困った時はお互いさん便』を実施し、買い物に行けず困っている方を対象に、市社協で申し込みを受け付け、担当の民生委員児童委員に非対面で延べ91世帯に食糧品等を届けていただきました。新型コロナウイルスも軽症化する中、これまで、中止されていた地域の集まり等も徐々に感染対策を図りながら再開される傾向にあり、ウィズコロナに向けて、困りごとの把握や解決に向けて状況に応じて対応していくことが求められています。

そうした中、行政計画である地域福祉計画と連携し、5年間の地域福祉活動の方向性を示す、第3次地域福祉活動計画（令和4年度～8年度）を策定しました。少子高齢化、世帯の単身化が進む中、地域のつながりが希薄化し、一人暮らし高齢者、認知症高齢者、8050（80歳代の高齢者と50歳代の働いていない子）の世帯、ひきこもり、障がいのある人のいる世帯、ひとり親家庭、ヤングケアラー（家族の介護や世話をしている子ども）など、困りごとを誰にも相談できず孤立している人がいることから、「助ける側」「助けられる側」に分けるのではなく、お互いに支えあいのできる地域共生社会の実現に向けた取り組み、誰一人取り残さない包括的に相談を受け止める体制作り、多様化する福祉課題に対応できる地域組織の基盤づくりを計画の柱にしています。

支えあいのできる地域づくりの推進においては、新たに福祉課題の早期発見早期対応に取り組む自治会単位の見守り支えあい活動が7自治会で発足し、学区単位の生活支援に取り組む活動が新たに1学区で準備を進めています。

令和3年度より、重層的支援体制整備事業移行準備事業を受託し、これまで「見守り支えあいネットワーク」として推進してきた、自治会単位の福祉課題の早期発見早期対応、学区域の課題を共有する場づくりや困りごとの受け皿作りを活かして、福祉の困りごとを受け止め、関係機関にスムーズにつなぐ体制づくりやひきこもり家族教室など孤立しがちな方が参加できる場づくり取り組みました。

また、災害時において、スムーズに災害ボランティアセンターを立ち上げ、円滑に支援を行うために、近江八幡市と「災害ボランティアセンターの設置・運営に関する協定」を締結しました。

介護保険事業については、サービスの一体化と効率化をめざして、通所介護事業サテライト化を図りました。

今ある姿を直視し、地域住民に信頼される社協経営をめざして、地域福祉の推進という使命を果たすため、職員提案の募集や職員研修を実施するなど役職員が一丸となって地域に根差した取り組みの推進に努めました。

【事業別報告】

1. 排除と孤立をほっとかない思いやりの育つまちづくり

(1) お互いに支えあう風土づくり（広報啓発）

市民に対し社協活動や地域福祉への理解を深めるため、広報紙を発行するとともに、ホームページ等を通して啓発を行いました。

特に、お互いに支えあう福祉のまちづくりの啓発やコロナ禍における社協活動を重点的に、広報等での情報発信を行い活動の見える化に取り組みました。

①広報紙「社協おうみはちまん」の発行	5月、7月、9月、11月、1月、3月
②ホームページ、フェイスブックによる情報発信	随時
③社会福祉功労者表彰式 と き：令和3年11月1日（月） ところ：文化会館小ホール 内 容：表彰 ※新型コロナウイルス感染症防止のため社会福祉大会を中止し、式典のみ実施した。 講演会は、地域福祉リーダー養成研修近江八幡つながり未来塾として延期して実施した。	

(2) 福祉の学びの推進（福祉教育）

①学校や地域の福祉団体と連携した活動体験型福祉教育の推進

学校や地域で行われた福祉学習への支援、協力を行いました。地域共生社会の実現に向けて福祉教育は重要であり、身近な地域における福祉のまちづくりと福祉教育を一体的に行うことで、だれもが安心して暮らせる地域づくりにつながっていくため、地域福祉推進委員会で、福祉教育のあり方について、当事者組織やボランティア活動者、福祉関係機関、教育関係者等のみなさんで検討しました。

- 学校への福祉教育支援

	小学校	中学校	高等学校	その他
令和3年度	5校 7件	0校	1校2件	0件
令和2年度	4校10件	0校	1校2件	0件
令和元年度	4校12件	1校1件	1校2件	1件

- 地域共生型福祉活動推進校モデル事業（赤い羽根共同募金による助成）
金田小学校（福祉教育推進委員会の開催など）

②出前講座（支援の必要な方への理解および支えあいの地域づくりを啓発）

見守り支えあえあいや、災害時にも生きる日頃の取り組みの必要性や、福祉課題の解決に向けた取り組み、だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくりについて、取り組み事例を交えて、啓発や取り組みの説明を行いました。

- ・支えあいの地域づくり等自治会単位への職員派遣 69件（令和3年度38件）

③子ども民生委員活動の取り組み支援

- ・安土学区民生委員児童委員協議会の取り組む子ども民生委員活動の取り組み支援（安土小学校における啓発劇の実施）

（3）ボランティア活動の推進（ボランティアセンター事業の推進）

〈評価と方向性〉

コロナ禍が続く中で、ボランティア活動はおおむね活動が再開されているものの、福祉施設等のボランティア活動は縮小や活動回数が減る状況が続いています。また共同募金ボランティアグループ助成事業実績報告では、自宅に作業を持ち帰ったり、近隣の感染状況を確認しながらできる範囲での活動を行いつつ、ボランティア活動者自らの健康にも気遣う様子が伺えます。昨今の食品や材料等の値上げの影響で出費を抑えるにはどうしたらいいかといった悩みも寄せられました。

このように、ボランティア活動を取り巻く状況は必ずしも明るいわけではありませんが、子育ての不安を抱える保護者の増加に対応して子どもと保護者の集いを定期的で開催したり、不登校の子どもを受け止める居場所づくりなど、困りごとを受け止め必要性に対応していくなど、孤立を防ぐ活動はむしろ活力を増しています。

令和2年度はやむを得ず中止したボランティア交流会ですが、令和3年度は人数の制限・時間の短縮の感染症対策をして開催し、定員いっぱいの51名の参加をいただきました。「活動の中でこんな面白いことがあった」「こんなつながりができた」「ピンチがチャンスになったこと」をテーマに、コロナ禍でも明るく前向きに活動していくモチベーションが高まるよう、レクレーションも交えて楽しく交流しました。

下半期には感染対策をしながら『キラリ輝く男塾』退職後男性講座を実施し、新たに退職後男性グループが立ち上がり、コロナ禍でも変わらず地域での仲間づくりや生きがいづくりのニーズが寄せられています。

また、昨年度に引き続き市内の子育てボランティアが集まって互いの活動を活かしながら地域の困りごとをキャッチし、ケアし支え合うネットワーク「おうみはちまん親子応援プロジェクトぱびゅぺぽ」の活動にボランティアセンターも参画し、活動に必要な視点を一緒に考えました。

ボランティア活動者がつながり、交流・参加・学びをさらに深めていけるプラットフォームとしての役割が、ますますボランティアセンターに求められています。

また、ボランティア活動者の目線から見えてきた地域課題を集約し、活動のために必要な支援や場づくり、仕組みについて協議を行う「ボランティアセンター運営委員会」を令和4年度より再開し、住民参加のもとでボランティアセンターの運営を行ってまいります。

①ボランティア活動に関する活動・相談支援

ボランティア活動等に関する情報提供や相談等を行い、活動の支援を行いました。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
--	-------	-------	-------

登録受付	個人 11 名 団体 143 件	個人 25 名 団体 135 件	個人 20 名 団体 132 件
相談受付・情報提供	1,024 件	933 件	1,226 件

<相談の内訳>

相談内容	出前ボランティア派遣	福祉教育(学校)	福祉教育(地域)	ボランティア募集	講師紹介依頼(出前ボランティア以外)	ボランティア講座	ボランティア保険
件数	27	25	35	36	23	50	285

助成金	活動場所	ボランティアG・団体の運営	イベント等の打合せ・協力	活動先の紹介	問合せ(部屋使用や講座イベント)	その他	総計
34	32	235	25	75	56	86	1024

②ボランティア同士の交流

ボランティア活動者同士の交流『ボランティア交流会』の開催

開催日	内容	人数
5月21日	アイスブレイク ・レクボラじゃんけん・ポン 上田きみさん 取り組み紹介 ・子育て応援グループ「ぱぴぷぺぽ」オンライン座談会 ・傾聴グループ「うさぎのみみ」変化した活動と交流会 ・令和退職後男性講座の皆さんの活動開始までの道のり活動のヒントや気づきの共有タイム	51名

③退職後男性の活動支援

・令和3年度生き生き男性講座 これからも、『キラリ輝く男(おやし)塾』

実施日	講座の内容	参加者
11月5日	今から必要！ 認知症予防と健康寿命	8名
11月10日	近江八幡の火祭りについて	5名
11月18日	プロのシェフと作る今晚のおかず	7名
11月26日	人生経験を活かした地域貢献のコツ	6名

講座終了後、フォローアップなどグループ化支援

「はるまき21」発足

④地域活動相談の実施

・地域コーディネーターの設置

退職前後の男性が地域活動をはじめるときかけの相談窓口として地域コーディネーターによる相談活動を実施しました。

◇地域活動相談

と き：第4月曜日 ところ：ひまわり館ボランティアセンター

内 容：退職男性を対象とした地域活動相談

開催日：9日

相談件数：0件

◇地域コーディネーター会議の開催 1回開催

⑤くらし応援サポーターの取り組み

くらし応援サポーターうさぎのみみ（傾聴活動）

サポーター登録17名、傾聴先10件

コロナ禍が続く中、傾聴訪問ができない期間は、電話訪問や往復はがきを活用して傾聴先にあった対応を継続しています。昨年度から研修の他に毎月の定例会の時間を使いメンバーで本や記事を使って傾聴の勉強会を続け、自己研鑽に励んでいます。

⑥ボランティア保険加入の窓口

ボランティア活動保険加入の手続き窓口として、事務を行いました。

	活動保険	行事用保険	福祉総合保障	送迎サービス保障
令和3年度	2,358名	150件	5件	8件
令和2年度	2,329名	88件	6件	10件
令和元年度	2,505名	113件	4件	6件

2. 共感し、共有しあえる居場所づくり

（1）地域の居場所づくりの推進

①自治会単位のふれあいサロン活動の支援

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、これまで実施してきたふれあいサロン活動の開催ができなくなる一方で、高齢者の閉じこもりや運動不足、生活に張り合いがないなど、孤立やフレイル（虚弱）の問題があり、ふれあいサロン対象者宅を見守り訪問して様子を把握されたり、自宅できる脳トレーニングの問題を配付されたり、外で実施できる活動に切り替えられたりと工夫して、つながりを絶やさない活動を実施されました。

また、十分な距離をとる、換気、消毒、検温、食事なしの活動、歌を歌わない等の3密を避け、感染防止対策を徹底しながら、活動再開をするところも増えています。

令和3年度ふれあいサロン実施回数

学区	八幡	島	岡山	金田	桐原	馬淵	北里	武佐	安土・老蘇	合計
個所数	18	9	10	16	23	13	13	7	31	134
回数	71	43	415	204	856	142	117	39	358	2,245

※新型コロナウイルス感染防止対策として、ふれあいサロン対象者への見守り訪問や外でのウォーキングなども開催数に含めています。

《令和2年度 135箇所 1,648回》

②学区単位のワンコインカフェなどの居場所づくり

地域のつながりづくりの取り組みとして、広域の居場所づくりが広がっています。小学校単位の居場所づくりを通じて、自治会単位にも取り組みが広がっており、身近な地域で、気軽に立ち寄れる、また、困ったときに相談できるような居場所づくりを推進しました。感染防止のため、多くが活動を休止されています。

八幡学区（ワンコインカフェほっこり）、島学区（ワンコインカフェ紅芭）、桐原学区（金よう茶屋）金田学区（ふれあい喫茶）、武佐学区（すきどりカフェ等）、安土地区（サロン活動金曜会）、安土学区（ふくふく）、老蘇学区（おいそや）、馬淵学区（まぶちふれあいカフェ）、岡山学区（カフェおたがいさん）

③子どもの居場所づくり（子ども食堂・学びの広場等）の活動支援

・子ども食堂連絡会の開催

市内10団体11か所に広がった子ども食堂同士で、運営に関する情報交換

開催日	内容	人数
3月15日	<ul style="list-style-type: none"> 各子ども食堂の活動状況紹介 話題提供：子育てをとりまく状況について 講師：大阪人間科学大学 教授 中川千恵美氏 グループに分かれて情報共有・交流 	18名

・子ども食堂への活動支援

子ども食堂の実施体制づくりや運営支援を行いました。子ども食堂への関心が高まり、お米や食糧の提供をいただくことが増えました。新型コロナウイルス感染症の拡大で大規模な子ども食堂は弁当を配布するなど形態を変えながら実施されました。新たに2団体が発足しました。

10団体11箇所

継続 むさっ子食堂（武佐学区） はちまん子ども食堂（八幡学区）
 きりっ子食堂（桐原東小・桐原小） スエばあちゃん食堂（武佐学区）
 みんなの食堂おほりばた（八幡学区） ほのちゃん食堂（金田学区）
 かんちゃんの小さな家（安土学区） 蜜柑の木（全域）
 新規 おいで～な食堂（八幡学区） 岡山水茎食堂（岡山学区）

⑥子育て支援事業つどいの広場事業の実施（市委託事業）

就学前の子どもとその保護者が気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で、情報交換や交流を図る場として「つどいの広場事業」を開催しました。事業を通して、子育てに不安がある保護者への相談援助活動や地域の子育て支援に関する情報提供を行いました。消毒や

検温、換気、人数制限などの感染対策を行い実施しました。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
開催日数	140日	122日	133日
延べ参加者	2,109名	2,042名	2,044名

開催日：毎週火・水・金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ところ：あいあいの家（安土町上豊浦元工場）

内 容：お話広場（毎月第1火曜日） お誕生会（毎月第3水曜日）

遊びの広場（複数回に分けて開催）

⑥レクリエーション用品の貸出

ふれあいサロン活動のなどのためのレクリエーション備品の貸し出しを行い、地域活動の支援を行いました。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
件数	25件	30件	64件

（2）地域で出番づくり

①子どもによる訪問活動の推進

子どもの施設訪問を実施していた活動などは、中止になりました。

3. 見守りと支えあいのつながりのあるまちづくり

～自分のまちを信頼して「助けて」と言える地域～

〈評価と方向性〉

令和2年10月に策定した第2次地域福祉活動計画の残り1年半の1.5か年アクションプラン（生活支援活動強化方針）に基づき、①自治会単位における困りごとの早期発見、②学区単位における協議協働できるネットワーク構築のための話し合いの場づくり、③個別の困りごとに対応できる活動の実践に引き続き取り組みました。今年度は、地域福祉活動計画を策定しました。

（1）自治会単位の福祉のネットワークづくり

①福祉協力員活動の支援

福祉協力員は、学区（地区）社協会長が自治会単位に設置をお願いし、委嘱するものです。ふれあいサロン活動や見守り活動など、身近な地域における福祉活動の必要性が高まっています。今後、福祉協力員の役割と活動内容が地域に浸透していくように、学区（地区）社協および地域福祉推進員と連携し、推進していく必要があります。

◇学区（地区）社協別福祉協力員数 <<合計 302名>>

学区	八幡	島	岡山	金田	桐原	馬淵	北里	武佐	安土・老蘇

人数	57	9	30	30	34	25	25	26	66
----	----	---	----	----	----	----	----	----	----

また、福祉協力員活動の支援を目的に研修会を開催しました各学区（地区）社協と連携し研修会を開催しました。

◇福祉協力員研修（学区域）

学区の状況に応じて、研修会などで取り組みに関する周知を行いました。

学区名	実施日	研修名（対象者）
八幡学区	7/17・7/24	福祉協力員オリエンテーション 2回分散開催
島学区	5月8日	ふれまち会議（福祉協力員）
岡山学区	5月25日	福祉協力員委嘱式及び研修会
金田学区	6月5日	ふれあいのまちづくり学習会（福祉協力員・民生委員・自治会長、ふれあいサロン指導者）
桐原学区	5月29日	自治会長・民生委員児童委員・福祉協力員合同会議（自治会長・福祉協力員・民生委員）
馬淵学区	5月25日	福祉協力員研修会（福祉協力員）
武佐学区	7/8・7/15	見守り支えあい推進会議において研修

②見守り支えあい活動の推進

身近な地域において、福祉課題の共有と課題の解決に向けた取り組みができるしくみづくりとして、自治会単位の「見守り支えあい活動」を推進しました。

見守り支えあい活動の推進を目的に、学区（地区）社協と協働で、学区ごとの状況に応じた推進体制づくりとして「見守り支えあい推進委員会」、および学区単位の話し合いの場づくりとして「見守り支えあい推進会議」、自治会に出向いての福祉のネットワークづくりに向けた話し合いの場づくりを行いました。地域での会議の開催や情報提供などの支援により新たな取り組みが始まるなど成果が見えています。自治会単位の見守り支えあいのネットワークづくりは、新に7自治会で立ち上がりました。（65自治会⇒72自治会）

・見守り支えあい推進委員会および見守り支えあい推進会議の開催

学区（地区）社協、学区民児協等連携し、自治会長、民生委員児童委員、福祉協力員等がテーブルを囲んで地域の福祉課題の共有や今後の地域活動の目標や振り返りについて話し合う場をつくり、地域の福祉課題の早期発見や課題解決に向けての基盤づくりを行った。

※今年度は、第3次地域福祉活動計画の策定に向けて、学区ごとの福祉課題と今後の取り組みの方向性の話し合いおよび整理した。

③見守り支えあい活動マップの作成

見守り支えあい推進会議などで把握した、自治会単位の見守り支えあい活動・居場所づくり、広域の居場所づくり、学区単位の生活支援活動の取り組みについて一覧表を作成し、3月に全戸配布しました。A3 両面 31, 000 部発行

④生活支援グループ交流会の開催

学区域の生活支援グループのリーダー層を対象に、困りごとの受け止めと、課題解

決に向けてのコーディネート力の強化をめざして、生活支援グループの交流会を実施しました。

開催日	内容等
2月8日	内容：研修「聴覚障がい者とのコミュニケーションについて」 講師：近江八幡市専任手話通訳者 李優子さん 各団体の活動紹介、情報、意見交換 場所：岡山コミュニティセンター 参加者：4団体12名

⑤オンラインを活用した研修や交流のための職員研修実施（地域力強化推進事業）

コロナ禍においても、支えあいの地域づくりに関する学びの場や交流の機会を継続して実施していくことを目的に、オンラインに関して精通されている方に、社協講演会や子育てボランティア交流会などのオンラインコーディネーターをお願いし、地域における会議や研修等でオンラインが活用できるよう、今年度実施した講演会等を基にマニュアルを作成いただき、職員向けに研修を実施した。今後の市社協主催の研修会や、学区（地区）社協等主催のオンラインを用いた研修会開催のサポート等に役立てていきます。

⑥生活支援送迎車両（ささえあい号）貸出事業の実施

市社協所有の車両を、生活支援を目的に自治会等の団体に貸出
令和3年度 3件

⑦市民生委員児童委員協議会との協働による新型コロナウイルス感染症自宅療養者への緊急食糧等支援事業「困った時はお互いさん便」の実施

市内で感染者が増え、自宅療養を余儀なくされた方で買い物にいけない、頼めないうちに困っておられる状況があることから、市民児協と協働で、週に1回を限度に食糧等をお届けした。

期間：令和4年2月7日～令和4年3月31日

お届け数：延べ91世帯、276箱

実施方法：市社協で受付、民生委員児童委員より非対面で届けた。

（2）学区（地区）社協を主体とした地域福祉活動の推進

①学区（地区）社会福祉協議会会長会の開催

学区（地区）社協間の情報交換や連携を行っていくため、学区（地区）社協会長会を開催しました。

開催日	協議事項
4月27日	第1回 市社協一般会費、市社協理事候補者、評議員候補者の推薦、福祉協力員研修、第3次地域福祉活動計画、市社協事業計画等
7月13日	第2回

	社会福祉大会表彰、学区（地区）社協の地域福祉活動推進状況等 ※地域福祉推進員および学区（地区）社協事務局担当者との合同で会議を行いました。
9月14日	第3回 共同募金運動、地域力はぐくみモデル事業、学区（地区）社協交流会、大雨被害の状況、コロナ禍の地域福祉活動等
2月16日	第4回 緊急食糧等支援事業、令和4年度市社協事業、災害ボランティアセンターの体制づくり、交流会の振り返り

② 地域福祉推進員活動の支援

地域福祉推進員は、各学区（地区）社協に1～2名設置し、学区（地区）社協会長とともに学区（地区）社協事業の企画や運営を行っていただくことを目的に設置するものです。

学区ごとの、福祉活動の推進において、地域福祉推進員と情報共有を図りながら、取り組みを進めました。今後も、地域の福祉課題に対応した学区社協活動の強化を図るため地域福祉推進員の情報交換および情報共有のための会議の開催が必要です。

③学区（地区）社協交流会の開催

学区（地区）社協活動の基盤強化を目的に、今後の学区（地区）社協活動を考えるきっかけづくりとして、交流会を開催しました。感染症対策のため2回に分けて実施しました。

開催日	内容等
11月4日・5日	内容：講演『新たな生活課題と地域コミュニティの基盤づくり』 講師：ローカリズム・ラボ 井岡仁志さん グループディスカッション 参加者：計33名 会場：総合福祉センターひまわり館

④ 学区ごとの生活支援の仕組みづくり

自治会単位では対応できない、困りごとの解決に向けて、自治会単位の見守り支援あい活動と連携した、学区区域の生活支援活動の継続や新規立ち上げ支援を行いました。

- 安土学区「生活支援グループともに」生活支援活動実施
- 岡山学区「暮らし応援団おたがいさん岡山」生活支援活動実施
- 武佐学区「生活支援グループさぽーとむさの輪」生活支援活動実施
- 島学区 「島生活支援グループどないしてはる？」生活支援活動の体制づくり実施
- 八幡学区で居場所への移動支援継続および「見守り市」の実施

⑤地域福祉リーダー養成研修「近江八幡つながり未来塾」

コロナ禍において、全般的に地域活動の自粛が行われ、普段の地域活動から地域で手助けを必要とする方の不安を受け止めることが難しくなっています。誰もが安心して暮らしていくために、コロナ禍でも地域でアンテナを張り、困りごとに早くに気づい、孤立を放ってお

かない地域づくりに向けて、身近な地域の支え合いのリーダーを増やしていくことを目的に4回シリーズで開催しました。感染防止のため、ひまわり館、岡山コミセン、島コミセン、安土地区社協事務所などをオンラインでつなぎ、会場を分散して開催いたしました。

開催日	協議事項
6月19日	第1回 参加者：88名 テーマ：災害につよい地域づくり 演題：あのときの真備、そしてこれから 講師：岡山県倉敷市社協職員、倉敷市真備町岡田地区社協役員
7月20日	第2回 参加者：63名 テーマ：「ひきこもり」に寄り添う 演題：見えないものを見る力 講師：社会福祉法人さわらび福祉会 理事長 金子秀明さん
12月4日	第3回 参加者：83名 テーマ：「孤立を生まない地域づくり」 演題：あなたは「助けて!」と言えますか？ 講師：ご近所福祉クリエイター 酒井保さん
12月17日	第4回 参加者：86名 テーマ：「介護はじめの一步」 演題：介護サービスの利用のしくみを分かりやすく説明します 講師：近江八幡市社協相談支援事業所職員

⑥地域福祉推進委員会の実施

学区域の福祉計画と地域福祉活動計画のそれぞれの進捗状況を確認する協議体を整理し、第2次地域福祉活動計画（平成29年度～令和3年度）の進捗状況の確認および新たな地域福祉課題の把握を行う協議体として、令和2年度に地域福祉推進委員会を新設しました。

開催日	協議事項
6月24日	第1回地域福祉推進委員会 出席者：17名 学区ごとの福祉的課題について 意見交換
8月5日	第2回地域福祉推進委員会 出席者：19名 学習：地域福祉活動計画策定に向けて～社会福祉の動向～ 講師：龍谷大学短期大学 学部長 中根真教授 ゲストスピーカー 安土手話サークル絆 林ノゾミさん 意見交換（10年後どんな地域にしたいか）
10月29日	第3回地域福祉推進委員会 出席者：19名 意見交換（向こう5年間でどのような取り組みが必要か）
12月9日	第4回地域福祉推進委員会 出席者：20名 意見交換（花の絵で表現した体系図案について）

⑦学区（地区）社会福祉協議会との連携による地域福祉活動の推進

学区担当職員が地域に出向き、各学区や地域の状況に応じて、学区（地区）社協、福祉協力員、居場所づくり（ふれあいサロン含む）、福祉教育、見守り支えあい活動、地域診断、計画づくり、相談活動、福祉啓発、民生委員活動、関係機

関・地域ケア会議等との連携、その他地区ごとの活動を推進しました。

地域福祉活動計画策定においては、各学区ごとに、話し合いの場をつくり、地域福祉の課題と方向性を学区（地区）社会福祉協議会とともにまとめました。

また、安土地区社会福祉協議会を令和4年3月末で発展的に解消し、令和4年度から、「安土学区社会福祉協議会」と「老蘇学区社会福祉協議会」の設立に向けて、協議を重ね準備をしました。

⑧地域福祉活動に関する相談件数

地域福祉活動を推進する中で、見守り支えあい活動や学区社協活動において多くの相談があり、地域のみなさんと共に活動推進にあたりました。

〈地域福祉活動に関する相談：相談内容の内訳〉

相談内容	学区社協活動	ふれあいサロン	見守り支えあい	助成金	居場所づくり	子ども食堂	共同募金
相談件数	177	71	209	79	63	131	43

個別支援 会議	福祉教育	災害	新たな資源開発	他機関との 連携会議	その他	総計
5	48	84	35	77	244	1,296

《令和2年度 898 件》

⑨地域福祉活動啓発リポーター「ひまわりリポーター」の取り組み

市民目線で、居場所づくりや支えあい活動などの地域福祉活動取材し、お伝えいただくことで、ひとりでも多くの方に、地域の福祉課題や解決に向けた取り組みに関心を持っていただき、福祉活動の裾野を広げていくこと目的に、ひまわりリポーターを募集し、活動いただきました。取材いただいた内容を、市社協広報やフェイスブックで紹介しました。

ひまわりリポーター 3名

（3）福祉関係団体・企業等との連携・協働

① 市内福祉関係団体との連携

② 福祉団体への助成

福祉団体等に対し助成を行いました。また、寄付者の意向に基づいた子ども福祉活動助成を行いました。

- ・学区（地区）社会福祉協議会に対し助成
- ・団体助成（福祉関係団体助成9団体に助成）
- ・広域居場所づくり助成（5団体に助成）
- ・子ども食堂助成（6団体に助成）

③近江八幡市民生委員児童委員協議会事務局

④近江八幡市赤十字奉仕団事務局

⑤見守りあい協定の締結

- ・見守り協定（金融機関1社）

⑥企業等との連携

就労準備支援事業において、企業や事業所での就労体験を受け入れいただきました。

⑦社会福祉法人との連携

社会福祉法人との連携を図るため、地域貢献活動や社会福祉法人連絡会の必要性などについてアンケート調査を行いました。地域の状況が把握できていないという意見もあり、今後連携して地域福祉活動を進めていくために状況共有していく必要があります。

（４）災害時支援の仕組みづくり

〈評価と方向性〉

令和3年度も引き続き災害ボランティアセンター運営連絡協議会において、災害時に困りごとの把握とボランティアによる必要な支援が届けられるよう、体制づくりの協議を行いました。また、令和4年3月25日に近江八幡市と「近江八幡市災害ボランティアセンターの設置運営に関する協定書」を締結いたしました。これにより、大規模災害が起こった際は、近江八幡市から災害ボランティアセンターの立ち上げの要請を受け、運営していくことになります。また、この協定書には平常時から両者が協力して災害ボランティアセンターの運営など災害時における連携・協力体制の確立を図ることが明記されています。今後、災害ボランティアセンター設置運営の手引きに沿って設置運営訓練の実施をはじめ体制の整備に努めてまいります。

① 災害ボランティアセンター運営連絡協議会

令和3年度は、災害ボランティアセンター運営連絡協議会において、学区サテライトの設置を想定した体制の協議を行い、「近江八幡市災害ボランティアセンター運営の手引き」を作成しました。

開催日	協議事項
6月25日	第1回災害ボランティアセンター運営連絡協議会 出席者：19名
10月8日	第2回災害ボランティアセンター運営連絡協議会 出席者：24名

② 災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施

令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

③ 災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定の締結

災害時において、スムーズに災害ボランティアセンターを立ち上げ、円滑に支援を行うために、近江八幡市と「災害ボランティアセンターの設置・運営に関する協定」を締結しました。

開催日	内容等
3月25日	近江八幡市と市社会福祉協議会による「災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定」調印式 会場：近江八幡市役所

④ 福祉活動と防災活動の連携支援

防災を意識した、日頃の福祉活動につながることを目的に、研修会の開催等を支援した。

開催日	内容等
7月17日	講師派遣職員1名 金田学区防災講習会 「災害にも強い地域づくりのために」
11月28日	講師派遣職員2名 島学区防災研修会 「災害時における見守り支え合い図上訓練」

4. 市社会福祉協議会の基盤強化

～多職種がいる社協の力を地域で発揮する～

(1) 総合相談機能の強化

〈評価と方向性〉

食糧支援、地域の方々の身近な相談窓口として、総合相談事業、地域福祉権利擁護事業に取り組みました。相談力の強化をめざして、民生委員児童委員等を対象に、地域相談員研修を開催しました。

また、生活困窮者自立支援法に基づく、就労準備支援事業の委託を受け、ひきこもりがちな方の就労支援を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減り生活にお困りの方を対象にした生活福祉資金特例貸付では、緊急小口資金、総合支援資金（新規、延長、再貸付）を合わせて1,404件の申し込みがあり、職員体制を強化して対応しました。貸付だけでなく、食糧支援の実施や、必要に応じて自立相談支援機関につなぐなどの支援をしました。

今年度から、身近な地域の困りごとの受け皿となっている地域住民や支援機関等との連携をより一層強化し、潜在的ニーズを把握し、支援の必要な人を支援機関につなぐ仕組みを構築するとともに、支援機関や地域関係者等との連携を通じた情報収集や情報共有およびその人にあった社会参加できる場へのつなぎができるようあらゆる参加できる場の創出し、社会から孤立している人がつながりの中で自分らしく安心して暮らせることをめざして、重層的支援体制整備事業移行準備事業（市委託）に取り組みました。今後は、専門職などとの連携体制づくりに取り組む必要がありま

す。

① 総合相談事業

住民の身近な相談所として、また、福祉課題の把握の窓口として、心配ごと相談を実施しました。心配ごと相談は、開催日を増やし、本所で偶数日(平日)に開催しました。今後はこれまで以上に相談していただきやすい相談窓口となるよう、地域の方々に安心して相談していただけるよう、相談員研修や周知の強化、身近な地域で相談できる体制づくりをすすめていきます。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
心配ごと相談	59件(102日)	45件(121日)	48件(117日)

・地域相談員研修会の開催

心配ごと相談員、民生委員児童委員を対象に地域相談力の強化をめざして研修会を開催しました。

	開催日・内容
第1回	開催日：令和3年6月21日 講演：不登校・ひきこもりの支援のために 講師：公認心理師 臨床心理士 福本早穂さん 参加者：27名(心配ごと相談員、民生委員児童委員)
第2回	開催日：令和3年12月13日 講演：傾聴について 講師：社会福祉法人しみんふくし滋賀 副理事長 成瀬和子さん 参加者：31名(心配ごと相談員、民生委員児童委員、傾聴活動うさぎのみみ活動者)

・心配ごと相談員交流会の開催

心配ごと相談についての共有認識や相談対応の考え方について情報交換を行いました。

	開催日・内容
第1回	開催日：令和4年3月17日 内容：相談に関する情報交換 参加者：10名

・ふくしの困りごと相談(重層的支援体制整備事業)

部署を超えて、共通の相談受付用紙を作成し、どこに相談してよいか分からない相談を市社協職員が受け止め、必要に応じて関係機関等につなぎました。

今後も、身近な地域における相談の受け止め先の充実および、相談体制の強化をめざして取り組めます。

相談件数 延べ62件

対応内容 相談のみ終結 33 件 社協支援で解決 1 件
 関係機関につないだ 23 件
 相談継続中 2 件 その他 12 件
 つなぎ先 市援護課 11 件 地域包括支援センター 8 件
 市長寿福祉課 3 件 ケアマネ 1 件
 ひきこもり支援センター 2 件

・地域相談力はぐくみモデル事業

身近な地域において、気軽に相談できる体制づくりをめざして、モデル事業に取り組みましたが、初年度は申請がありませんでした。学区域の相談拠点としては、3学区で実施されています。

安土学区心配ごと相談（安土学区民児協）
 桐原学区心配ごと相談（桐原学区民児協）
 老蘇学区憩いのサロン（老蘇学区民児協）

②生活福祉資金貸付

・生活福祉資金の貸付業務

滋賀県社会福祉協議会が実施する生活福祉資金貸付事業の相談窓口として、相談支援活動を通して貸付事業を実施しました。

貸付手続きだけでなく、近江八幡市の困窮者自立相談支援事業と連携し、申し込み相談の内容からその世帯の抱えている問題点を把握し、他の福祉サービスに繋げることができました。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
新規貸付件数	1,404 件 （教育費4件、福祉費4件、※コロナ貸付1,396件）	2,712 件 （教育費2件、福祉費3件、※コロナ貸付2,707件）	39件（コロナ貸付4件）

※特例貸付 1,396 件内訳

緊急小口資金 415 世帯

総合支援資金 415 世帯 延長 100 件 再貸付 466 世帯

③小口生活資金貸付事業

生活保護適用までの方やすでに生活保護を受給されている方を対象に近江八幡市の補助事業として小口生活資金貸付事業を実施しました。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
貸し付け件数	15件	14件	19件

④生活困窮世帯支援事業

・食糧支援

一時的に残金や食糧がなく生活にお困りの方に対して、世帯人数に応じて食糧をお渡ししています。財源は、共同募金助成金によるものと、市民のみなさまからお米や食糧品のご寄付によるものです。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
食糧支援	65世帯	94世帯	46世帯
日用品支援	25世帯	—	—

⑤暮らしづらさを抱えた人の居場所づくり事業

地域でのつながりを失い孤立状態にある人や、ひきこもりの人等が社会と接点を持つ最初の一步として、暮らしづらさを抱えた人の居場所づくり事業『ねこの手』を実施。社会とつながる第1歩としての役割を担っています。今後も「地域とつながれる作業を通じた居場所」として、地域共生社会の実現をめざしています。

ひまわり館2階ボランティアルームで毎週火曜日10:00～12:00にローソクの仕分けや封筒詰め等の作業を行っています。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
実施回数	43回	39回	39回
延べ利用者数	153名	275名	251名
延べボランティア数	204名	145名	147
自宅等での延べ利用者数	1名	9名	6名

⑥就労準備支援事業（市委託事業）

生活困窮者自立支援法に基づき、自立支援相談窓口（市援護課）で相談を受け、就労に向けて、支援が必要とされた人を対象に、地域活動や就労体験をしながら就職準備のため支援活動を行い、有償ボランティアや就労につなげることができた。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
実利用者数	4名	5名	4名
居場所・地域活動支援	23件	33件	54名
職場体験支援	52件	95件	124件
就労体験新規受入先訪問	4件	12件	17件

（2）地域福祉権利擁護事業

①地域福祉権利擁護事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等で判断能力が不十分な方が、安心して地域で生活ができるよう、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理、書類預かり等を行う事業を実施しました。行政や地域の包括支援センター、障がい者支援センターからの相談から契約にいたるケースが多くありました。また、成年後見制度の利用がふさわしい方には、積極的に成年後見人に引き継ぐということを視野に入れながら支援しました。

	認知症高齢者等	知的障がい者	精神障がい者	その他
相談援助件数	695件	841件	1,145件	0件
新規契約件数	7件	4件	4件	0件
年度契約件数	21件	27件	27件	0件

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
契約件数	78件	82件	85件

(3) 在宅福祉サービス等の実施

①介護保険事業

【居宅介護支援事業】

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
要支援	52件	99件	119件
要介護	957件	1,499件	1,589件
合計	1,009件	1,598件	1,708件

【通所介護事業】

・デイサービスセンターひまわり

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
要支援	0件	0件	0件
要介護	6,541件	6,943件	6,614件
合計	6,541件	6,943件	6,614件

・デイサービスセンターひまわりサテライト

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
要支援	0件	0件	0件
要介護	3,223件	3,760件	5,469件
合計	3,223件	3,760件	5,469件

「デイサービスセンターきらめきあづち」をサテライト化し、通所介護事業の一本化を図りました。

【訪問介護事業】

・ヘルパーステーションあづち

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
延べ件数	8,099件	8,090件	8,973件

② 障害者総合支援法に基づく障がい福祉サービス事業

〈評価と方向性〉

障がい福祉サービスについては、居宅介護事業が増加傾向にあり、今後も事業強化を図って参ります。

【介護給付事業】

- 居宅介護事業所（訪問介護）

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
延べ件数	2,237件	1,775件	1,609件

- ガイドヘルプひまわり（視覚障がいのある方への支援）

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
居宅介護	57件	83件	128件
同行援護	129件	87件	138件
合計	186件	170件	266件

【計画相談支援事業】

- 相談支援事業所

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
障がい児	247件	263件	269件
障がい者	699件	681件	627件
合計	946件	944件	896件

③高齢者支援サービスに関する事業

〈評価と方向性〉

介護保険の対象とならないサービスのため、利用者からのニーズが高く、引き続き事業を実施していきます。

【福祉輸送事業】

公共交通機関の利用困難な要介護高齢者を対象に通院の送迎を行いました。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
延べ件数	305件	305件	200件

【生活支援事業】

独自事業として、公的サービスでは対応できない一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象に、通院介助や入院時の洗濯などのサービスを引き続き実施していきます。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
延べ件数	145件	329件	562件

【軽度生活支援事業】

独自事業として、公的サービスでは対応できない一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象に、通院介助や入院時の洗濯などのサービスを引き続き実施していきます。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
延べ件数	23件		

【備品貸出事業】

- ・ 車椅子の貸出

他制度・他施策で貸与や支給が受けられない方を対象に短期間において車椅子の貸し出しを行いました。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
件数	233件	339件	342件

10月より、無料化を図りました。

④障がい者支援事業

〈評価と方向性〉

地域との連携や手話通訳の派遣など本会の強みを活かした障がい者支援事業を実施しました。また、相談支援機関や障がい福祉サービス事業所と連携しながら相談支援事業を実施しました。

【手話通訳事業】

聴覚障がい者のコミュニケーション支援のため、手話通訳サービスを実施しました。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
日野町	32件	22件	41件
竜王町	208件	156件	156件
合計	240件	178件	197件

(4) 地域福祉推進のための財源確保と共同募金運動の活性化

①会費の募集

賛助会費の募集について、役員および職員で取り組みました。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
一般会費	7,512,980円	7,463,060円	7,004,660円
賛助会費	438,000円	386,500円	77,000円

②善意銀行

広報等によりご寄付の紹介を行いました。

今後使い道についても、見える化を図り、ご寄付いただけるよう努めて行きます。

③近江八幡市共同募金委員会

自治会、団体および事業所等の協力を得て実施しました。

赤い羽根共同募金運動は、「自分のまちをよくするしくみ」として、制度のすきまの課題に対応する地域福祉活動を推進する運動として、多くの地域住民の皆様にご理解とご協力をいただき取り組みを進めました。市社協への助成を通じてひきこもりがちなかたの中間的

な居場所づくりや生活支援活動に向けた座談会の開催や、見守り支えあい活動助成やボランティアグループ助成など自治会やボランティアグループへの助成を行い、安心して暮らせる身近な地域のセーフティネット作りに向けた新たな取り組みを支援しました。

歳末たすけあい募金の助成については、学区（地区）社会福祉協議会が実施する歳末訪問活動等に助成しました。テーマ型募金は、今後必要なテーマを検討していくため、昨年度で、「くらし支えあい応援募金」、「こどもの居場所応援募金」は終了しました。

共同募金委員会事務局として、共同募金の事務や啓発活動を行いました。

・共同募金実績額

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
赤い羽根共同募金	5,524,445 円	5,666,424 円	6,447,627 円
歳末たすけあい募金	3,778,141 円	3,923,998 円	4,542,793 円
くらし支えあい応援募金	—	10,283 円	34,016 円
子どもの居場所応援募金	—	10,874 円	10,840 円

・助成

助成においては、審査委員会を設置し、公正な助成を行っています。

〔一般募金助成事業〕

高齢者福祉活動費	学区（地区）社会福祉協議会の高齢者福祉事業へ助成
福祉活動対策費	市社協活動〔広報紙、声の広報、生活困窮世帯支援、暮らしづらさを抱えた方の中間的居場所づくり、災害ボランティア体制づくり〕 地域共生型福祉教育推進校モデル事業助成〔1校〕 見守り支えあい活動助成〔自治会22団体〕 ボランティアグループ助成〔23団体〕 学区生活支援活動助成助成〔2学区〕 学区命のバトン推進助成〔4学区〕 当事者団体活動助成〔8団体〕

〔歳末たすけあい助成事業〕

歳末助成金	各学区（地区）社会福祉協議会活動〔見守り訪問活動、配食、ふれあい交流活動等〕
-------	--

・災害援護活動

火災見舞金：3件

※日本赤十字社滋賀県支部近江八幡市地区の事務局は令和3年度より行政に移行しました。

（5）施設・事業所などと連携し、地域福祉活動を推進

①施設・事業所と地域福祉活動との連携

・地域包括支援センターなどの関係機関に、見守り支えあいのまちづくり一覧表を配布しました。また、居宅介護支援事業所のケース検討会に参加し、地域福祉活動についての説明を行いました。

・高齢者福祉施設に小学校における福祉教育や、居宅介護支援事業と地域の見守り
 支えあい活動との連携などをつなぐ取り組みを行いました。今後も、こうした事例
 について周知を図りながら、連携促進を図りたいと考えています。

(6) 市社会福祉協議会の基盤強化

〈評価と今後の方向性〉

社会福祉法人において経営組織のガバナンスの強化および事業運営の透明性の向上、財
 務規律の強化等を行い、透明性のある組織運営を行っていくため役員が参画した事業戦略
 や組織、経営基盤の安定確保を図る必要があります。

① 会務の運営

【理事会】

本会の業務執行の決定・理事の職務執行の監督等のため、理事会を開催しました。

開催日	議事内容
6月9日	第1号議案 令和2年度事業報告について 第2号議案 令和3年度決算について 監査報告 第3号議案 理事候補者の選任について 第4号議案 評議員候補者の選任について 第5号議案 施設長の選任について 第6号議案 令和3年度第1回評議員会の開催について 第7号議案 会長の職務執行状況報告について
7月16日	第8号議案 会長、副会長および常務理事の選任について 第9号議案 評議員選任解任委員の選任について 第10号議案 顧問の選任について
10月5日	第11号議案 会長・常務理事の職務執行状況の報告について
1月18日	第12号議案 会長・常務理事の職務執行状況の報告について 第13号議案 令和3年度1次補正予算案について 第14号議案 令和3年度第2回評議員会の開催について
3月17日	第15号議案 会長・常務理事の職務執行状況の報告について 第16号議案 令和3年度2次補正予算（案）について 第17号議案 令和4年度事業計画（案）について 第18号議案 令和4年度収支予算（案）について 第19号議案 役員賠償責任補償特約の加入について 第20号議案 第4回評議員会の開催（案）について

【評議員会】

本会事業の運営を監督するとともに重要事項の決定のため、評議員会を開催しました。

開催日	議事内容
6月28日	第1号議案 令和2年度事業報告について

	第2号議案 令和2年度決算について 監査報告 第3号議案 理事・監事の選任について
1月25日	第4号議案 第1次補正予算(案)について
3月28日	第5号議案 第2次補正予算(案)について 第6号議案 令和4年度事業計画(案)について 第7号議案 令和4年度収支予算(案)について

【監査】

職務執行・会計の監査のため、監査を実施しました。

開催日	内容
5月27日	令和3年度の事業報告および決算の監査

顧問税理士による定期監査を毎月1回定期的に受け、会計事務の透明性、正確性を図りました。

【評議員選任解任委員会】

評議員の補充選任のため評議員選任解任委員会を設置しました。

開催日	内容
6月18日	評議員の選任について
7月21日	委員長の選任について

② 基盤強化

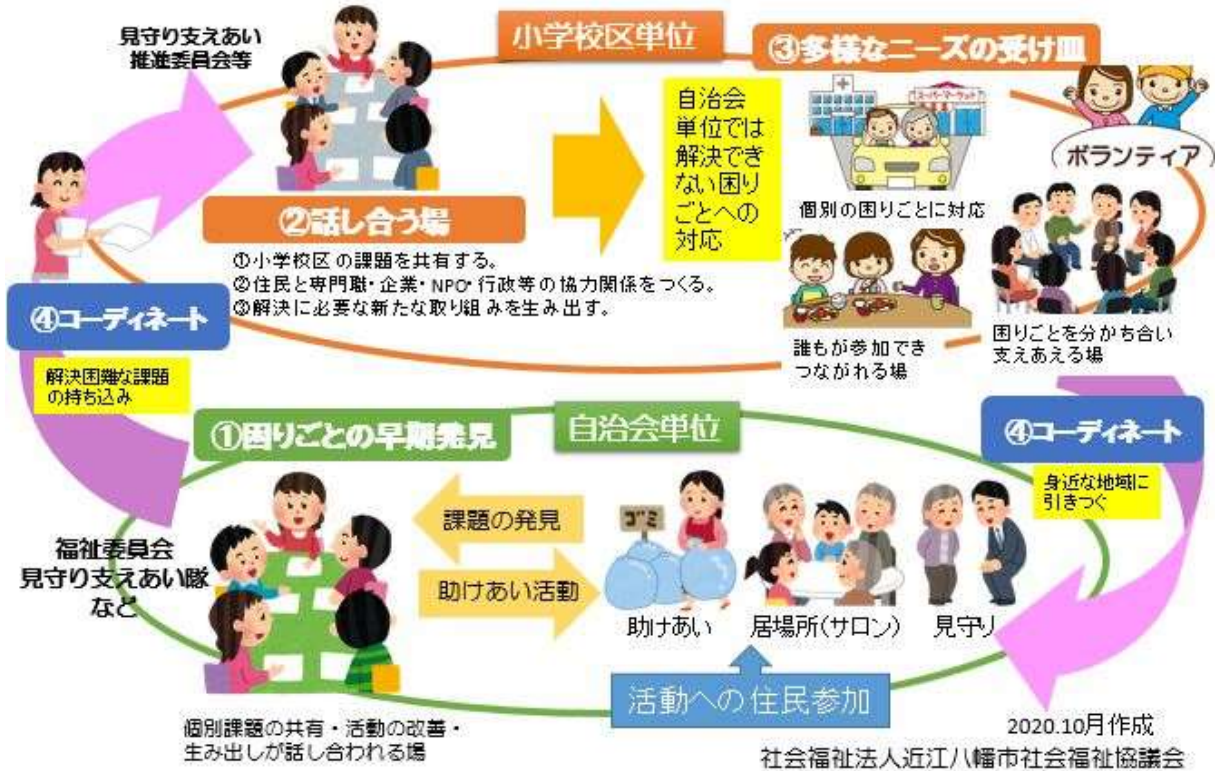
【第2次地域福祉活動計画推進 1.5か年アクションプランの推進】

第2次地域福祉活動計画（平成29年度～令和3年度）「地域福祉活動宣言：私たちは、見守り守られることが実感できるつながりのあるまち近江八幡を目指します。」の推進を目指して、平成29年10月から令和2年9月までの3か年アクションプラン（生活支援活動強化方針）に続いて、第3次地域福祉活動計画（令和4年度～）に向けて地域のニーズを集約しながら、令和2年10月からの1.5か年アクションプランを策定し、特に地域からのあらゆる相談を受け止める仕組みづくりを重点的に修正し、到達目標を①自治会単位の見守り支えあい推進組織を85か所へ（策定時点63か所）、②学区単位の居場所を10学区へ（策定時点9学区）、③学区たすけあいサポートセンターを10か所へ（策定時点3学区）として取り組みを推進しています。

令和3年度の成果

- ①自治会単位の見守り支えあい推進組織 新規7カ所（合計72カ所）
- ②学区単位の居場所 新規なし（合計9学区）
- ③学区たすけあいサポートセンター（生活支援グループ）新規なし（合計3学区）

近江八幡見守り支えあいネットワーク



【第3次地域福祉活動計画計画の策定】

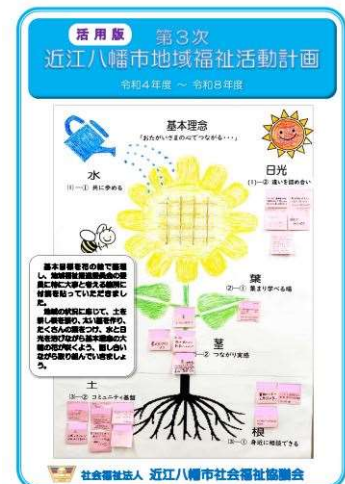
市の地域福祉計画と一体的に、第3次地域福祉活動計画

【令和4年度～令和8年度】（基本理念：お互いさまの心でつながる参加と支えあいのまち近江八幡）を策定しました。策定のポイントは、①ひとり親家庭や障がいのある方、孤独を感じていたりひきこもりがちの方など、すべての人ができることを活かして喜びやつながりが実感できる地域を目指す＝地域共生社会の実現を目指すこと

②地域住民に身近な地域で、ふだんのつながりから地域で困りごとを拾い上げ、それを専門職や関係機関につなげていくしくみ＝包括的に相談を受け止めるしくみを作っていくこと③福祉の課題が複雑多様化している中で、それらを受け止められる地域組織の基盤づくりにしっかり取り組んでいくことです。

【地域福祉推進事務局会議の開催】

地域福祉活動を推進していくうえで、行政との連携は欠かせないものであり、地域福祉計画と地域福祉活動計画の推進状況や課題を確認しながら、取り組みを進めました。参加者：市福祉政策課職員、市社会福祉協議会職員



拡大会議として、市企画課、人権市民生活課、長寿福祉課、まちづくり協働課も含めた会議を実施しました。

③役職員研修の実施

・職員研修の実施

開催日	研修内容
7月28日	第1回 テーマ：災害時の社会福祉協議会の対応について 「要配慮者の災害時個別支援計画について考える」 講師 上田洋行さん 高島市障がい者相談支援センターコンパス 相談支援専門員 各部署ごとに災害時の初動体制やハザードマップを確認 参加職員35名
11月19日	第2回 テーマ：接遇 「接遇」 講師 藤井寿美子さん 15時30分～23人 18時30分～26人
12月15日	第3回 テーマ：コンプライアンス 「社会福祉におけるコンプライアンスの重要性」 講師 今井良輔さん 虎ノ門法律経済事務所 京都支店弁護士 参加職員38名、参加役員1名
2月21日	第4回 テーマ：人生訓 「出会わなければならない ただひとりの人がいる それは 私自身」 講師 藤波正明 さん 滋賀教区坂田組 正行寺住職、浄土真宗本願寺派 布教師、 京都刑務所 教誨師 参加職員35名、参加役員1名

④苦情解決の実施

社会福祉協議会が実施するサービスの苦情解決を図るため、毎月1回職員による会議を開催しました。

・相談（苦情）件数および事故件数

項目	令和3年度	令和2年度	令和元年度
福祉サービスに対する相談（苦情）	6件	2件	4件
福祉サービスにおける事故	16件	12件	14件
地域福祉活動に対する相談（苦情）	0件	0件	0件
地域福祉活動における事故	0件	0件	0件
施設管理業務に対する相談（苦情）	0件	0件	0件
施設管理における事故	0件	0件	0件

その他	0件	0件	2件
合計	22件	14件	20件

⑤ 施設運営管理

総合福祉センターの一部業務（貸館業務）の委託により実施しました。

	令和3年	令和2年度	令和元年度
貸館合計	908件	852件	863件
市関係	428 (47.1%)	470.5 (55.2%)	431 (49.5%)
福祉団体等	421 (46.3%)	310 (36.4%)	402 (46.6%)
社会福祉協議会	59 (6.6%)	71.5 (8.4%)	30 (3.4%)

⑥ 社会福祉援助技術現場実習生の受け入れ

福祉人材育成の一環として、社会福祉士養成校より実習生を受け入れた。

計2名（大谷大学、京都医健専門学校）

⑦ その他

- ・ 赤い羽根共同募金滋賀のまちを良くする仕組み助成を受け地域福祉活動の推進のためノートパソコン4台購入しました。